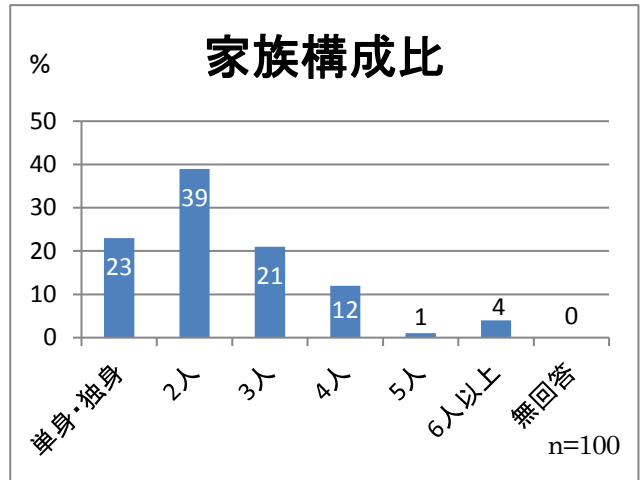
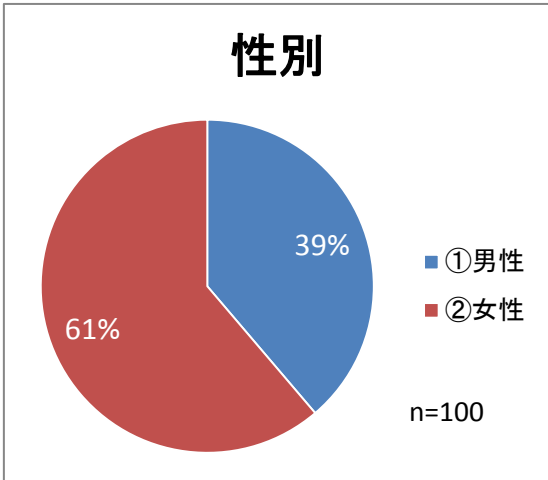


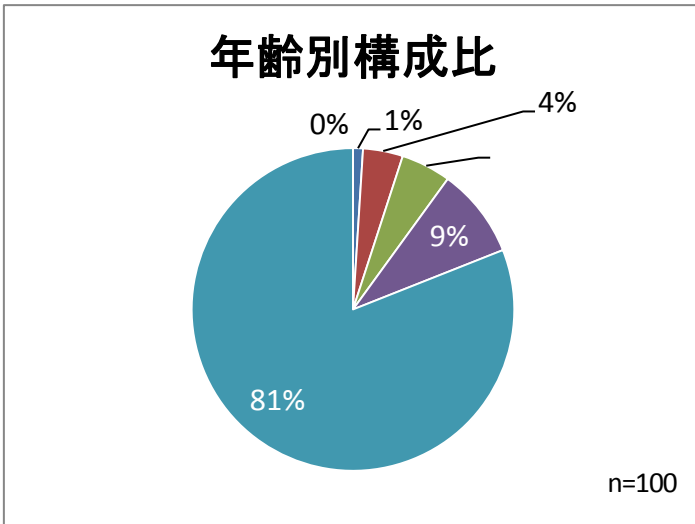
需要動向調査（平成30年度）

1. プレミアム商品券利用者アンケート調査結果

(1) 回答者の属性



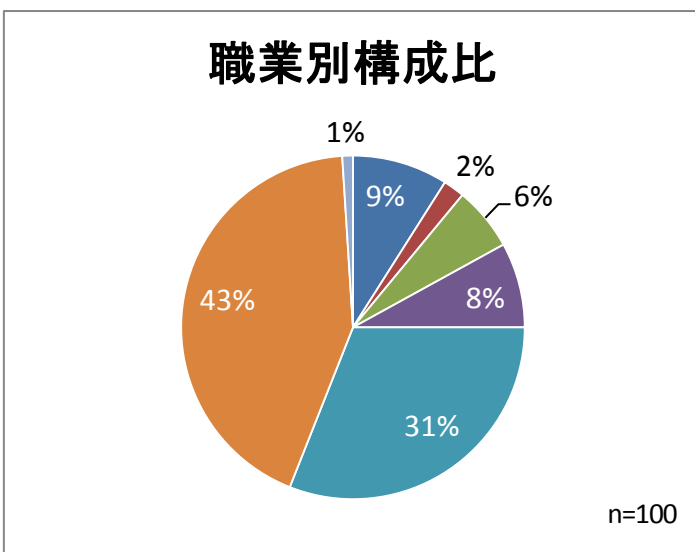
<年齢別構成比>



本アンケートにおける需要動向は調査対象の年齢帯の多くが60代以上、単身もしくは2人暮らしの女性を中心であったことが色濃く反映していると予想される。そのことから地域の年齢帯構成により需要構造に差が生じることが予想され、年齢構成に応じた需要予測、アプローチも必要とされる。

- ~20歳代
- 30歳代
- 40歳代
- 50歳代
- 60歳代~
- 無回答

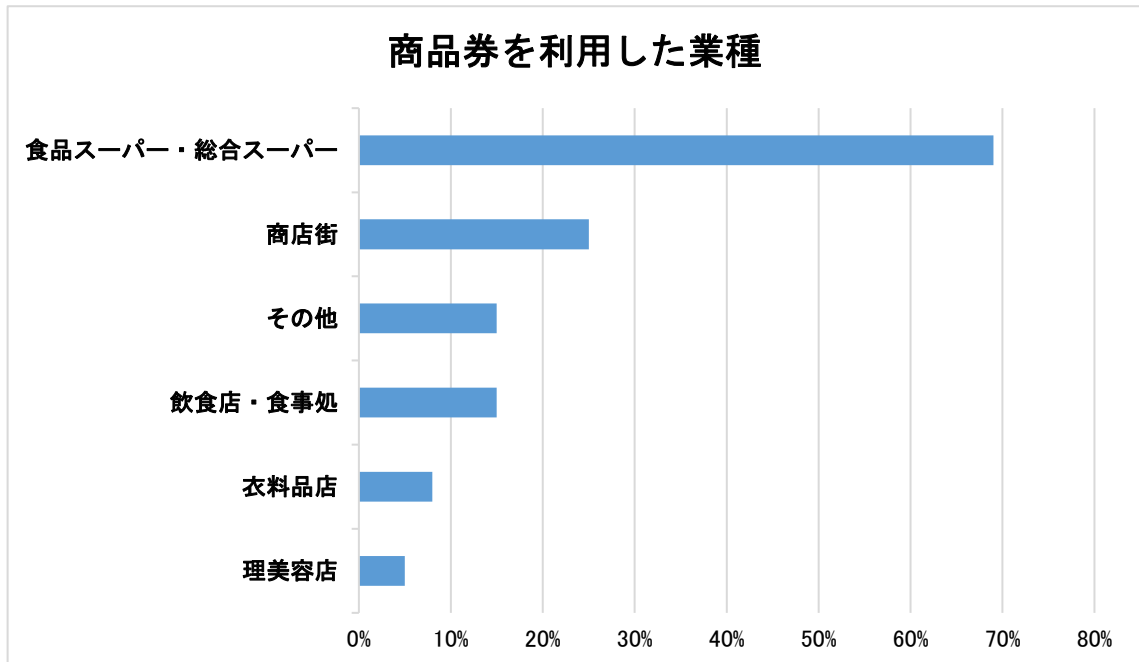
<職業別構成比>



主婦(夫)が3割、その他が4割を占める。昨年と比較すると主婦(夫)が1割の減、その他が1割増加している。調査対象は年齢60歳代が大半の為、その他は無職が多いと思われ、主婦(夫)または無職の高齢者が商品券の購入に来られていると考えられる。

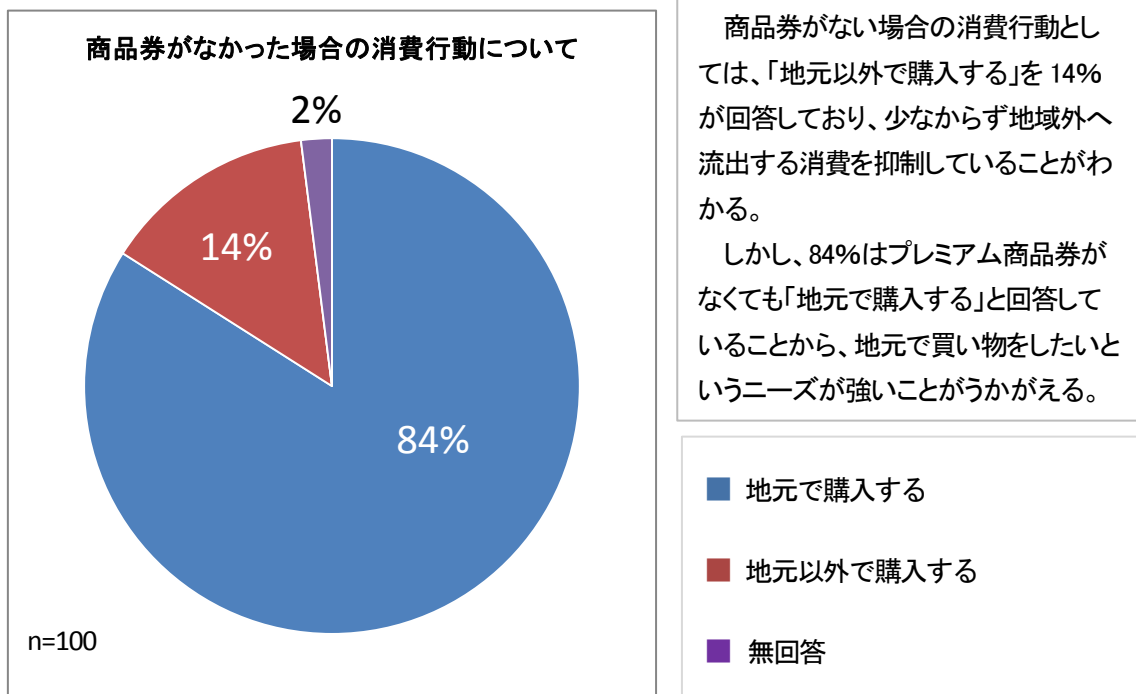
- 会社員
- 公務員・団体職員
- 自営業
- パート
- 主婦(夫)
- その他
- 無回答

(2) プレミアム商品券を利用した業種



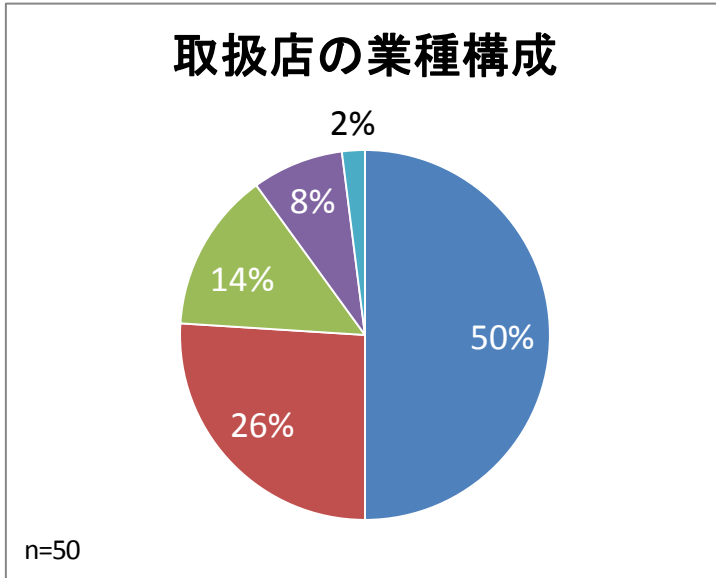
利用業種は「食品スーパー・総合スーパー」「商店街」が多く、日常での買回り品に利用する傾向が強く表れている。

(3) プレミアム商品券がなかった場合の消費行動



2. プレミアム商品券取扱店アンケート調査結果

(1) 取扱店の業種構成

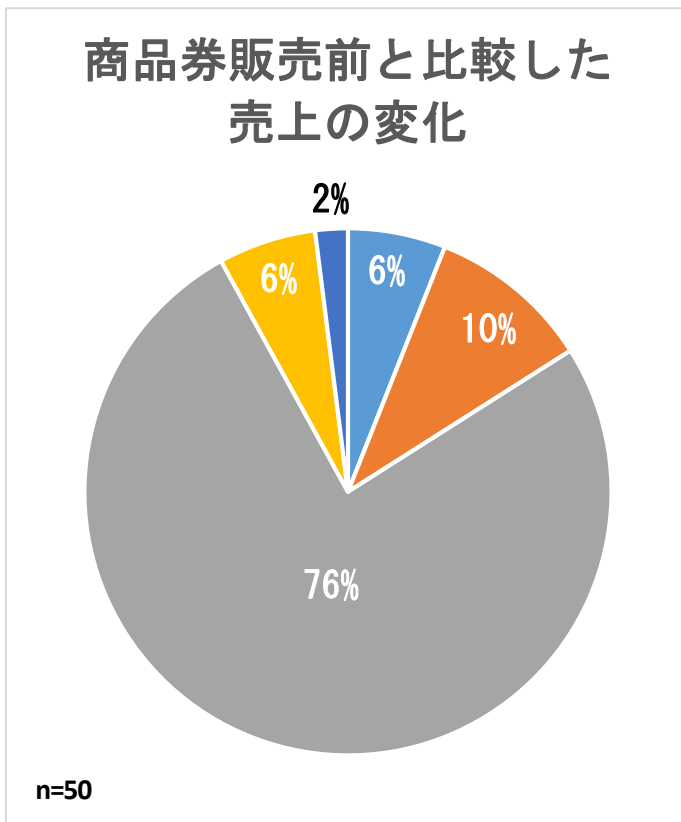


「小売」が50%、「飲食」が26%と小売業、飲食・サービス業の回答が76%を占めている。

「土木・建設」は14%、「その他」が8%、「製造業」が2%であった。

- 小売
- 飲食
- 土木・建設
- その他
- 製造業

(2) プレミアム商品券販売前と比較した売上（註）の変化

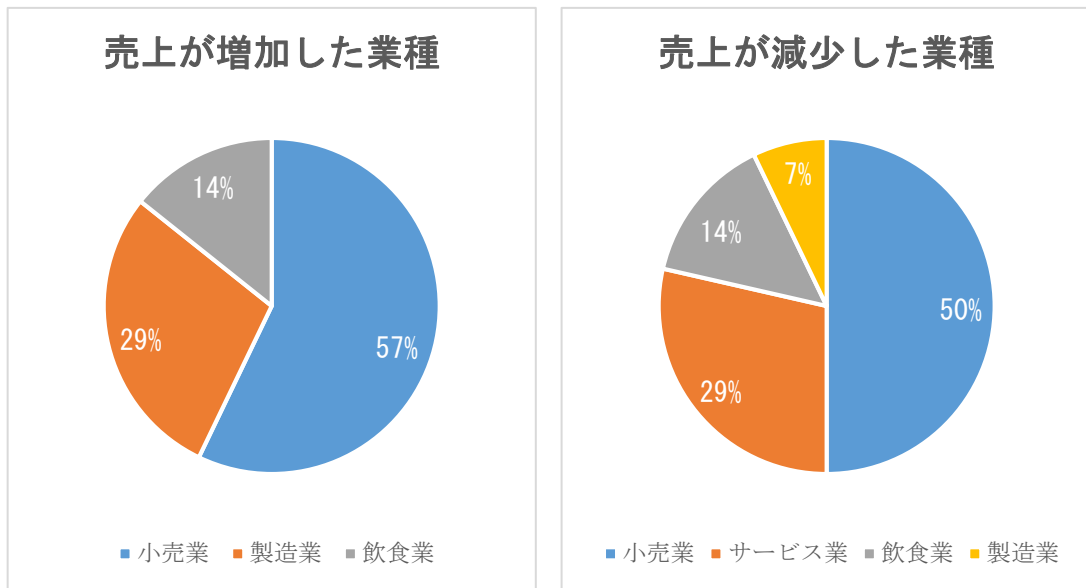


売上（註）が「30%以上増加した」と回答した店舗、「20~30%増加した」店舗はなかった。「10%~20%増加した」と回答した店舗は6%、「0~10%増加した」と回答した店舗は10%。

76%は「変わらなかった」と回答。

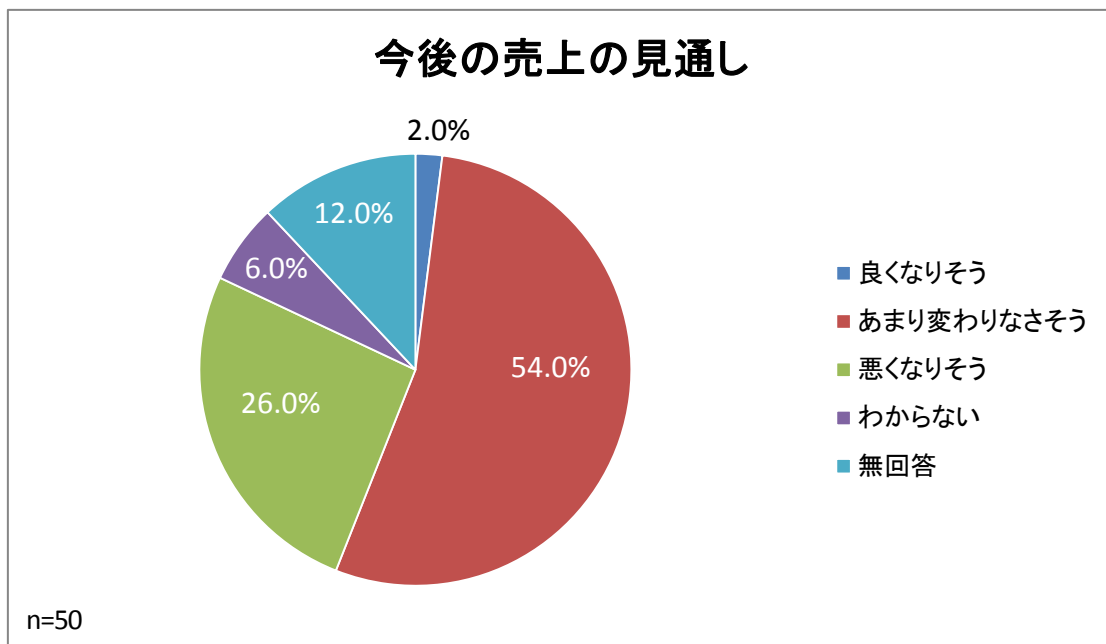
6%の店舗が「減少した」と回答した。

- 0%~10%増加した
- 0~10%増加した
- 変わらなかった
- 減少した
- 無回答



註：アンケート調査における「売上」は現金等も含んだ全体の売上であり「プレミアム商品券を使用した売上」ではありません。

(3) 今後の売上の見通し

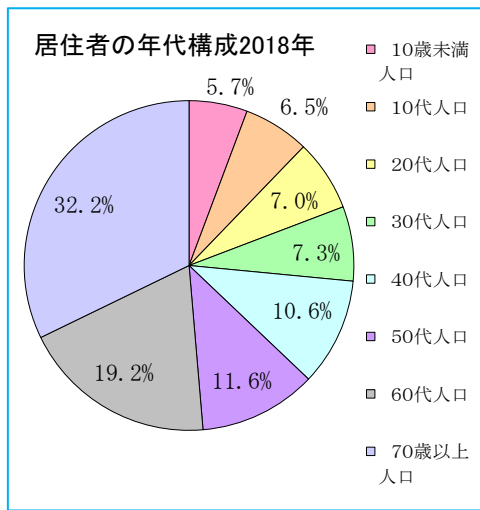


今後の売上見通しについて、「良くなりそう」と回答した店舗は 2.0%で、「あまり変わりなさそう」と回答した店舗は 54.0%。「悪くなりそう」と回答した店舗は 26.0%であった。

「良くなりそう」と回答した割合から「悪くなりそう」と回答した割合を差し引いた売上見通しDIは▲24.0と、今後の景況感は厳しい見通しになっている。

3. 町丁字別の需要動向

(1) 大字採銅所



年代構成

60代未満の人口:48.6%

60代以上の人口:51.4%

町内の60代以上の人口割合は47.0%であり、当町丁は高齢化率が4.4ポイントほど高い。中でも特に70歳以上の人口割合が高い町丁である。

【特徴】大字採銅所の消費動向の特徴としては保健医療関連支出の健康保持食品、医薬品の支出が多い一方でコンタクトレンズの支出は低い。また教養娯楽についても切り花、園芸用品、書籍、パック旅行などの主に高齢者層に需要がある品目の支出は高い一方で、テレビゲーム機や玩具など子どもや若年層向けの支出が低い。これは町内でも60代以上の人口比率が高く高齢者向けの商材の支出が多いことが原因であると考えられる。また、住居費においては設備材料の支出は多い一方で家賃支出は低く、持ち家比率が高く住宅修繕の需要が高いことが見受けられる。

分野別水準判定

分野	規模	安定	富裕	流入	密集	成長	総合
偏差値	48.98	58.61	50.83	39.76	43.33	50.48	48.67
水準判定	=	++	=	--	-	=	=

符号の意味:++高水準、+やや高水準、=平均水準、-やや低水準、--低水準

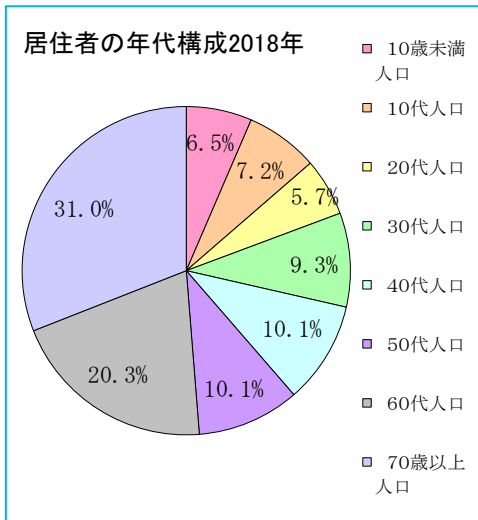
消費支出の偏差値が高い分類、細目

分類	細目	偏差値
保健医療関連	健康保持用接取品	50.39
	医薬品	50.22
教養娯楽	切り花	50.38
	園芸用品	50.38
	書籍	50.18
	パック旅行	50.18
	果物	50.32
食料品	魚介類	50.25
	野菜・海藻	50.17
	家具・家事用品	50.23
住居費	設備材料	50.33

消費支出の偏差値が低い分類、細目

分類	細目	偏差値
教育費	幼児小学校補習教育	49.11
	教科書学習参考書	49.36
	高校・予備校補習教育	49.60
	月謝類	49.63
教養娯楽	テレビゲーム機	48.98
	玩具	49.24
	運動用具類	49.56
被服及び履物	子ども用シャツセーター	49.04
	子ども用洋服	49.12
保健医療関連	コンタクトレンズ	49.22
住居費	家賃地代	49.52

(2) 大字香春



年代構成
 60代未満の人口:48.7%
 60代以上の人口:51.3%
 町内の60代以上の人口割合は47.0%であり、当町丁は高齢化率が4.3ポイントほど高い。

【特徴】大字香春の消費動向として、教養娯楽関連支出の内、高齢者層に需要のある園芸用品、切り花、手芸工芸材料、パック旅行など支出が多い反面、若年者層に需要のあるテレビゲーム機や運動用具類の支出が低い。また、教育費関連の支出も低く、高い高齢化率が影響していると考えられる。分野別水準判定では、小売中心地性及び民営事業所比率が高いことから「流入」の項目で高水準となっている。

分野別水準判定

分野	規模	安定	富裕	流入	密集	成長	総合
偏差値	52.49	50.83	53.29	59.01	44.34	57.23	52.87
水準判定	=	=	+	++	-	+	+

符号の意味:++高水準、+やや高水準、=平均水準、-やや低水準、--低水準

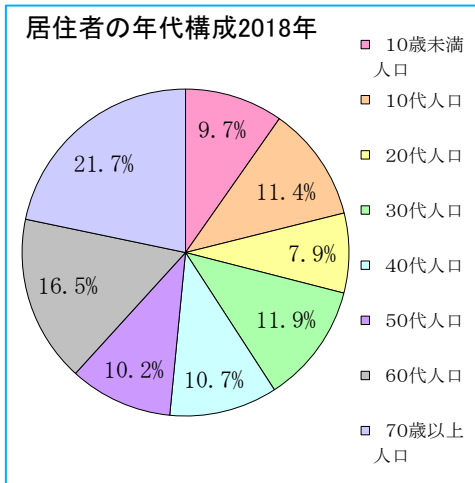
消費支出の偏差値が高い分類、細目

分類	細目	偏差値
教養娯楽	園芸用品	51.53
	切り花	51.47
	手芸工芸材料	51.29
	パック旅行	51.28
	書籍	51.23
食料品	魚介類	51.35
	野菜・海藻	51.26
住居費	設備材料	51.43
被服及び履物	生地・糸類	51.34
家具・家事用品	家事サービス	51.33
保健医療関連	医薬品	51.32

消費支出の偏差値が低い分類、細目

分類	細目	偏差値
教育費	高校・予備校補習教育	49.69
	中学校補習教育	49.91
	幼児小学校補習教材	50.09
教養娯楽	テレビゲーム機	50.39
	運動用具類	50.64
	パーソナルコンピューター	50.68
被服及び履物	男子用洋服	50.58
	子ども用シャツ・セーター	50.67
	子ども用洋服	50.71
保健医療関連	コンタクトレンズ	50.04
住居費	家賃地代	50.53

(3) 大字高野



年代構成
 60代未満の人口: 61.8%
 60代以上の人口: 38.2%
 町内の60代以上の人口割合は47.0%であり、当町丁は高齢化率が8.8ポイントほど低い。

【特徴】大字高野の消費動向として、教育費の割合が高いことに加え、教養娯楽費の内のコンタクトレンズ、玩具、テレビゲーム機の支出が多い。また、子ども用のシャツセーター、子ども洋服の支出も多い。一方で教養娯楽費の内、切り花、パック旅行、園芸用品、書籍が低く、保健医療関連支出では健康保持用接取品や医薬品の支出が少ない。
 このため、当町丁は若年者層が多く居住していると考えられ、若年者層向けの需要が高いことが考えられる。
 分野別水準判定では、世帯密度、昼間人口密度共に高いことから「密集」の項目で高水準となっている。

分野別水準判定

分野	規模	安定	富裕	流入	密集	成長	総合
偏差値	47.80	42.45	47.24	54.05	61.23	59.01	51.96
水準判定	=	-	-	+	++	++	=

符号の意味: ++高水準、+やや高水準、=平均水準、-やや低水準、--低水準

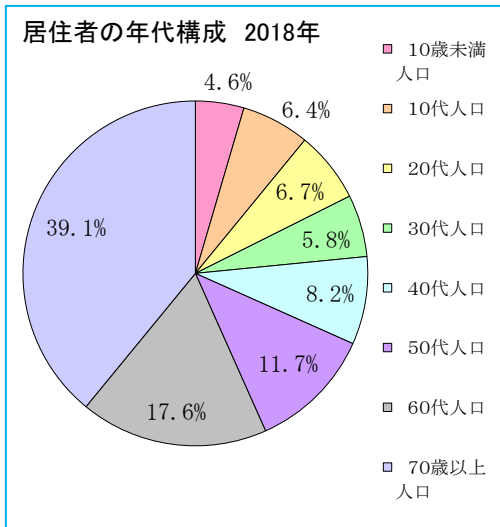
消費支出の偏差値が高い分類、細目

分類	細目	偏差値
教育費	高校予備校補習教育	49.69
	幼児小学校補習教育	48.38
	中学校補習教育	47.77
教養娯楽	コンタクトレンズ	47.97
	玩具	47.95
	テレビゲーム機	48.45
	運動用具類	47.33
	月謝類	47.22
被服及び履物	子ども用シャツセーター	48.36
	子ども用洋服	48.19
住居費	家賃地代	47.48

消費支出の偏差値が低い分類、細目

分類	細目	偏差値
教養娯楽	切り花	45.81
	パック旅行	46.18
	園芸用品	45.83
	書籍	46.18
食料品	果物	45.95
	魚介類	46.06
	野菜海藻	46.21
保健医療関連	健康保持用接取品	45.82
	医薬品	46.10
住居費	設備材料	45.88
家具・家事関連	家事サービス	46.07

(4) 大字鏡山



年代構成
 60代未満の人口:43.3%
 60代以上の人口:56.7%
 町内の60代以上の人口割合は47.0%であり、当町丁は高齢化率が9.7ポイント高い。中でも特に70歳以上の人口割合が39.1%と居住者の4割近くが70歳以上と高齢化率の高い町丁である。

【特徴】大字鏡山の消費動向として、高齢化率が高いことにより、健康保持用接取品、医薬品、眼鏡などの保健医療関係支出、切花、園芸用品といった高齢者向けの教養娯楽支出の比率が高い。逆に補習教育や教科書学習参考書といった教育費の支出、子供用シャツ・セーター、子供用洋服といった被服及び履物の支出は低くなっている。
 分野別水準判定では、65歳以上人口比率及び持ち家世帯比率が高いことから「安定」の項目が高水準だが、住民基本台帳人口伸び率及び将来推計人口伸び率が低く、「成長」の項目ではやや低水準となっている。

分野別水準判定

分野	規模	安定	富裕	流入	密集	成長	総合
偏差値	42.02	61.47	40.82	60.62	42.49	48.77	49.37
水準判定	-	++	-	++	-	=	=

符号の意味:++高水準、+やや高水準、=平均水準、-やや低水準、--低水準

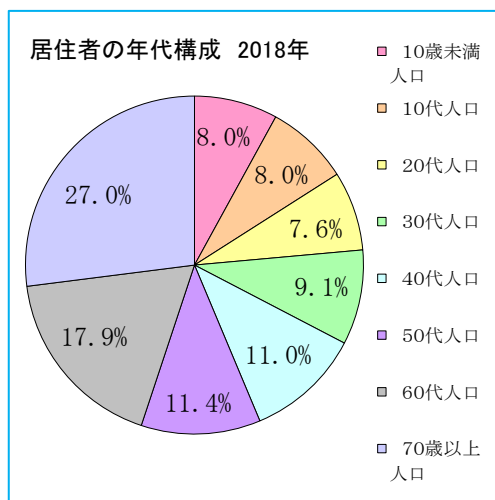
消費支出の偏差値が高い分類、細目

分類	細目	偏差値
保健医療関連	健康保持用接取品	42.18
	医薬品	42.03
	眼鏡	41.99
教養娯楽	切り花	42.16
	園芸用品	42.15
	書籍	42.02
食料品	果物	42.11
	魚介類	42.05
	野菜・海藻	41.99
住居費	設備材料	42.10
家具・家事用品	家事サービス	42.05

消費支出の偏差値が低い分類、細目

分類	細目	偏差値
教育費	幼児・小学校補習教育	41.22
	中学校補習教育	41.43
	教科書・学習参考教材	41.43
	高校・予備校補習教育	41.63
被服及び履物	子ども用シャツ・セーター	41.23
	子ども用洋服	41.28
教養娯楽	テレビゲーム機	41.27
	玩具	41.37
	運動用具類	41.55
保健医療関連	コンタクトレンズ	41.39
交通通信費	自動車等関連用品	41.61

(5) 大字中津原



年代構成

60代未満の人口:55.1%

60代以上の人口:44.9%

町内の60代以上の人口割合は47.0%であり、当町丁は高齢化率が2.1ポイントほど低い。

【特徴】大字中津原は、町内で最も消費支出が高い地域である。特に教育費に関しては幼児から高校生まで全般的に支出比率が高く、パーソナルコンピューターやテレビゲーム機、運動用具類など若年層に需要の高い教養娯楽支出の比率が高いことが特徴である。逆に同じ教養娯楽支出でも園芸用品や切り花など高齢者に需要の高い支出比率は低くなっている。

分野別水準判定では、人口規模が大きく、年収700万円以上就業者数及び1千万円以上貯蓄高世帯数も多い為、「規模」、「富裕」共に高水準である。また、住民基本台帳世帯密度及び昼間人口密度も高く、「密集」の項目でも高水準である。

分野別水準判定

分野	規模	安定	富裕	流入	密集	成長	総合
偏差値	68.14	39.12	67.20	46.12	64.30	42.22	54.52
水準判定	++	--	++	-	++	-	+

符号の意味:++高水準、+やや高水準、=平均水準、-やや低水準、--低水準

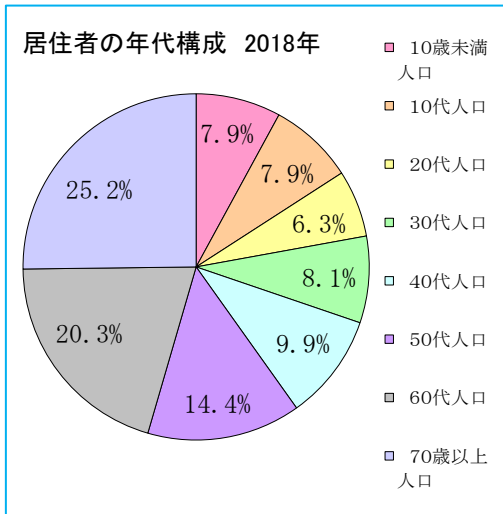
消費支出の偏差値が高い分類、細目

分類	細目	偏差値
教育費	高校・予備校補習	69.20
	教科書楽手参考教材	69.10
	中学校補習教育	69.07
	幼児小学校補習教材	68.96
教養娯楽	パーソナルコンピューター	68.91
	運動用具類	68.90
	テレビゲーム機	68.88
被服及び履物	男子用洋服	68.94
	男子用シャツセーター	68.88
保健医療関連	コンタクトレンズ	69.04
住居費	家賃地代	68.92

消費支出の偏差値が低い分類、細目

分類	細目	偏差値
教養娯楽	園芸用品	68.61
	切り花	68.63
	手芸・工芸材料	68.70
	パック旅行	68.71
保健医療関連	健康保持用接取品	68.64
	医薬品	68.69
食料品	魚介類	68.68
	果物	68.65
住居費	設備材料	68.65
被服及び履物	生地・糸類	68.69
家具・家事用品	家事サービス	68.69

(6) 大字柿下



年代構成

60代未満の人口: 54.5%

60代以上の人口: 45.5%

町内の60代以上の人口割合は47.0%であり、当町丁は高齢化率が1.5ポイントほど低い。

【特徴】大字柿下の消費動向として、高齢化率が低いこともあり幼児から高校まですべての年代の教育費への支出割合が高いことに加え。若年層に需要のあるコンタクトレンズの支出割合は高くなっている。逆に園芸用品や切り花などの高齢者に需要のある教養娯楽関連支出、健康保持用接取品や医薬品などの保険医療関連支出の支出割合は低くなっている。

分野別水準判定では、ほとんどの項目が低調である。特に、昼夜間人口比、小売中心地性、民営事業所比率がいずれも低く、「流入」の項目は特に低水準である

分野別水準判定

分野	規模	安定	富裕	流入	密集	成長	総合
偏差値	40.56	47.52	40.62	40.43	44.31	42.30	42.62
水準判定	--	=	--	--	-	-	-

符号の意味: ++高水準、+やや高水準、=平均水準、-やや低水準、--低水準

消費支出の偏差値が高い分類、細目

分類	細目	偏差値
教育費	高校予備校補習教育	42.75
	教科書・学習参考教材	42.50
	中学校補習教育	42.41
	幼児小学校補習教育	42.25
教養娯楽	愛玩動物・同用品	42.06
	運動用具類	42.02
	テレビゲーム機	42.02
	パーソナルコンピューター	42.01
保健医療関連	コンタクトレンズ	42.34
被服及び履物	男子用洋服	42.10
交通・通信費	自動車等購入	42.00

消費支出の偏差値が低い分類、細目

分類	細目	偏差値
教養娯楽	園芸用品	41.50
	切り花	41.54
	手芸・工芸材料	41.61
食料品	果物	41.54
	魚介類	41.61
	野菜・海藻	41.66
保健医療関連	健康保持用接取品	41.53
	医薬品	41.63
住居費	設備材料	41.60
被服及び履物	生地・糸類	41.62
家具・家事用品	家事サービス	41.63